

高橋が求めた コロナ第6波対策

神戸市の11月議会が2021年11月29日から12月8日まで開催されました。高橋ひでのりは、コロナ第6波に備え、以下の対策を求めました。

無症状でも宿泊療養施設に入所できる体制を



神戸市は第6波に向けて、無症状の方でも「家族感染の恐れのある場合」「高血圧や糖尿病などハイリスク者」を宿泊療養施設の対象にしました。高橋はそれに対して、無症状者全員が入所できるように求めました。健康局長は「それが望ましいが、感染者が多い時は物理的に無理。可能であれば本人が希望する場合は受け入れたい」と回答しました。

外国人相談窓口の柔軟な運用を



言葉の問題や文化の違いで検査が遅れて外国人のクラスターが出たため、神戸市は外国人向けの相談窓口を作りました。高橋は健康局長に「在留許可が過ぎている外国人の方が、コロナ感染で入院した結果、自治体から法務省に通報され、逮捕されるという事件が他都市で起きた。それでは外国人が検査や治療を受けなくなる。感染症対策を優先して法務省に通報しないこともできるという厚労省通知を活用して、相談に来られた外国人の個人情報法務省に通報しないよう」求めました。その結果、局長の「厚労省通知の趣旨も踏まえて柔軟に対応したい」との答弁を引き出しました。

高齢・障害施設でクラスターを出さないために



重症化リスクの高い高齢・障害施設。第4波の時は、入院もできず入所者が亡くなるという悲劇が起きました。

そこで神戸市は、クラスターにならないように、対象施設職員38000人が週に1回PCR検査を受けて、感染者を早期に発見する体制を作りました。しかし応じる施設がまだ一部です。福祉局に検査に応じない施設の意識調査を求めました。福祉局は「この間の対象施設への説明で応じてくれる施設が増えている」「厚労省のQ&Aも活用しながら説明していきたい」との答弁をしました。

コロナ後遺症対策の充実を

倦怠感や疲労感、頭痛や集中力低下、手足の震えなどコロナ後遺症の症状は多種多様です。しかし新しい症状であるために、周囲の理解を得ることが難しいです。神戸市は昨年11月から専用相談窓口を開設し、5000人の実態調査を始めました。高橋は調査を通じて「コロナ後遺症」の定義を確定するとともに治療費の公的負担のために特定疾患制度の適用を求めています。難病の治療法確立のため国が医療費を負担する代わりに治療データを集める制度です。

神戸市新型コロナウイルス感染症
後遺症相談ダイヤル
【受付時間】10~17時、月~金・日曜日(土・祝日除く)
【TEL】078-322-6037

みなさんからいただいた
ご意見を神戸市に提案しました



インターネット誹謗・中傷を
なくしたい！



インターネットでの誹謗中傷が後を絶ちません。丹波篠山市では悪質な部落差別動画事件も起き、市長が住民といっしょになって裁判で争い、削除させました。神戸市も人権推進課がネットモニタリングを独自に始めたことは評価します。さらにモニタリング対象を同和問題に限らず、兵庫県のように外国人差別やコロナ差別も対象にするよう求めました。福祉局担当部長は「それも研究していきたい」と答弁しました。

さらに高橋は、問題投稿の削除要請を法務局に依頼しては結果もわからないので、直接削除要請を行ってスキルアップをと求めました。その結果「職員がやるのが良いのか専門人材にお願いするか様々な可能性を検討したい」との福祉局長の答弁を引き出しました。

オーガニック給食を神戸市に

神戸市学校給食会に外郭団体特別委員会で質疑しました。2019年の質疑の結果、神戸市が「ラウンドアップ」などの名前で販売されているグリホサート系農薬の残留検査を新たに行うようになったことを評価したうえで、農水省も危険性を認めている「ネオニコチノイド系防虫剤」の検査を追加するよう求めました。担当部長は検討を約束しました。さらに、農薬を使わない有機農業の野菜を給食で使うため、神戸の生産者と協議するよう求めました。しかし担当部長は「学校給食は大量の食材が必要なので現時点では無理」との回答に終始しました。

農水省は、地球温暖化対策になる有機農業を2050年には4分の1にする目標を掲げています。農業政策を所管する経済観光局とも協議を続け、全国で始まっている「オーガニック(有機農業産品)を学校給食で」を実現しましょう。



パートナーシップ制度の導入を

つなぐ神戸市議員団では、男女共同参画センター所長を呼んでジェンダー・LGBT対策を聞きました。所長は、相談対応に追われて企画立案ができていない実態を認めました。高橋は「LGBT対策を人権推進課任せには不十分。ジェンダー平等と合わせて企画調整局が責任を持つ体制を。大部分の政令市が導入しているパートナーシップ制度の導入を」と求めました。

20政令市の導入状況

導入なし

神戸市
仙台市

導入済

(導入予定含む)

札幌市 さいたま市 千葉市
横浜市 川崎市 相模原市
新潟市 静岡市 浜松市
名古屋市 京都市 大阪市
堺市 岡山市 広島市
北九州市 福岡市 熊本市

高橋ひでのり プロフィール

●1957年生まれ。●1984年京都大学卒業後、神戸市に就職。生活保護ケースワーカーとして勤務。●1995年阪神淡路大震災時、避難者の生活保護受給に奮闘。垂水区役所等で国保・年金業務を担当。

●勤務と並行し平和・脱原発・差別撤廃などの市民運動に参加。●2011年 精神保健福祉士の資格取得、精神障害者の成年後見ボランティア参加。●2017年3月59歳で退職。●2019年4月神戸市議員選挙(垂水区)に立候補し4162票で初当選。●つなぐ神戸市議員団の政調会長。福祉環境委員会/外郭団体に関する特別委員会委員。●趣味：ゴスペル・登山



Facebook発信中

アンケートにご協力をお願いします

ご回答を裏面連絡先までE-mail、FAX、郵送でお送りください。今後の活動に活用させていただきます。

- 【1】今号のどの記事が興味深かったですか？
- 【2】分かりにくかった記事があればご指摘ください
- 【3】今後とりあげてほしいテーマは？
- 【4】神戸市議、高橋ひでのりへのご意見